

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300861		
法人名	有限会社 みなみ風		
事業所名	グループホーム みなみ風		
所在地	静岡県富士市伝法1773番地の1		
自己評価作成日	令和4年8月12日	評価結果市町村受理日	令和5年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&UjyosyoCd=2272300861-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご高齢の方が多く、部屋で身体を休めて頂くことも多いが、休息を取ることで活気が出るように配慮している。また、なるべく自分の力のできることに取り組めるように見守りをしている。看取りが近い方があれば、特にご家族や主治医とのやり取りを密に行い。安心して最期を迎えられるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「気配りをよくしてもらえ、異変があればすぐ連絡がある」等、他事業所にもあるような内容のほか「近況報告書の名前が「ご家族様」から個人名が記載されるようになって感動した」といった心配りの深さが覗える内容もあり、また代表者が看護師ということもあり「入院していたときより健康状態が向上して驚いている。医療を含み介護が万全で非常に満足している」との賛辞も挙がっています。看取りでは「家族同様なので安心して～」と家族を労い、一方その後通夜で参列した事業者に食事を提供くださるのを遠慮、辞退したところ、「家族なんだからいいじゃないですか」と言ってもらえたとのエピソードに「第二の家」の理念が集約されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々のケアを考える時に事業所の理念から外れないようにサービスを考えている。また、職員からの意見を聞き、より良いサービスに繋がるように実践にしている。	開設以来、理念「第二の家」を大切に取組んでいます。さらに利用者が穏やかに過ごせるよう、さらに掘り下げて個人目標で具現化し、施設内研修で振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年度も、コロナの影響から町内のお祭りなど、事業所として参加できるものが中止となってしまう、実際の参加は無い。第7派のコロナの流行があり、施設内のお祭りも併設の施設との交流は見合わせた。	ウイズコロナも浸透しつつあり、高校生の実習の受入れをおこない、また実現しなかったものの介護インタビューを受ける機会等、要望があれば前向きに応えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の中学生の職場体験や、高校生の介護実習の場としてコロナの影響があるが、できる範囲で受け入れをして行く。9月・10月に高校生の実習予定がある。また、夏休みの課題として介護の仕事について高校生にインタビューを受ける予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を利用して、民生委員の方や市役所の方の出席がある為、地域の情報を収集できるようにしている。毎回の議題についても情報交換だけでなく集まった方が知りたい情報が学べるように議題を集めるように心掛けている。	職員の家族が体調を崩したときは当日に取りやめにしたこともありましたが、コロナ禍で書面開催が定番となる事業所が増えているなか、衛生管理に配慮しつつ、参会での実施に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナの影響があったため、積極的に窓口に行くことはない。現状できる範囲でのやり取りである。	検査キット配付の通知など、富士市からのメール配信は日々確認しており、運営に役立てています。また急遽当日に運営推進会議を休止としたときは市役所に相談にのってもらえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の開放は自動ドアの為、閉まってはいるが、施錠はせず、出たい時はいつでも出られる。身体拘束委員会を中心にミーティングでケアの反省を行っている。今年度は、さらに3ヶ月間ごとの目標を決めてここに注意しながら支援できるように取り組んでいる。	四半期毎に実施の「身体拘束廃止権利擁護委員会」では、さらに3ヶ月毎の目標を定めることで、注意ポイントを絞って現場に落とし込むことができています。また委員会の協議内容に迷うこともありましたが、多々調べて解決に至っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で職員に学ぶ機会を提供している。また、不適切ケアが行われないようにミーティングでヒヤリハットや事故報告から話し合いの場を設けている。小さな瘡も報告し、検証するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度など今年度は学ぶ機会をまだ設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をしており、不安なことがあればいつでも受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家族への手紙に、意見を無記名で記入して提出できるようにしている。実際に提出されたことはない。来所時や電話をした時、担当者会議の時などに要望など聞いている。	新管理者となってから家族アンケートの回収率が高く、また「本当に真摯な対応があるんだ」と第三者に十分伝わる意見ばかりで、関係性の充実が受け止められます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の勤務の中や、ミーティングで意見を聞くようにしている。意見を反映できるように一緒に考えている。	開設19年、10年以上の勤務者も多く、職員の高齢化は課題の一つです。身体の調子をはじめ、連携や協力体制を以て業務を軽減できないかといったことにも管理者は配慮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体力的に負担になることが多い為、勤務について常に考えている。個々に相談があれば話を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や日々のケアの中でトレーニングできるようにしている。また、職員同士で助け合えるよう声掛けをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会を通じて意見交換をしている。今年度も、コロナの影響の為、FAXや電話、zoomを利用している状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えることができる方は、本人の話を傾聴している。できない方も様子を見ながら声掛けをしたり、気持ちを汲み取っている。ご家族から本人についての話を聞き、どのような生活をしていたか情報を集めて関わりに反映できるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の考えや気持ちを入所時に聞いている。また、入所後も状況が変わるごとに連絡を取り、その時の気持ちも聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、見学に来て頂き、その方に合ったサービスとなるかどうか家族と考えている。併設の施設に小規模多機能型居宅介護施設もある為、そちらの説明もすることもある。家族に選択肢ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	高齢の方が多いため、相手の立場になって考え、無理なく過ごせるように部屋で身体を休めたり、できる範囲で隣に座って昔話をしたりその時々話題を振ってお喋りをしながら馴染の関係を築いている。家族からも話題提供の為、情報収集している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係が良い関係に保てるように心掛けながら、代弁者として双方にうまくお互いの気持ちが伝わるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り面会の場を設けたり、併設施設から移動した方は遊びに出掛けて交流したりしている。外出は、コロナ禍の為、できていない。	併設事業所を経て入所となった利用者は、今でも顔馴染みに会うことができ、また家族との面会も続いています。事業所として面会はできるだけ継続させていて、多い家族は月2、3回来所しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が必要に応じて入居者様同士の間に入り支援している。また、交流している賑やかさが他の方にとっては、ストレスを感じてしまう方もいる為、座る場所を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了されたご家族に手紙を出し、様子を聞いたり、退居される時に困ったことがあれば気軽に相談して欲しいことを伝える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向にできるだけ応えられるように職員間で検討したり、家族に相談している。	会話からくみ取った内容をケアに反映させるのは無論のこと、本人がなかなか意向を出せないこともあるため、職員から「散歩しましょうか」といった声がけをこまめにおこなっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴の情報を得られるように入居時に生活歴シートを家族に記入してもらい、職員が情報を共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや、連絡ノートなどを通して現状把握ができるように努めている。検討事項については、ミーティングで話し合うこともある。本人のつぶやきから現状把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや、日々の生活でケアについて情報や意見を出し合い、その方の現状に合う計画を立てるように努めている。また、ご家族にも希望を聞いている。	入居したばかりで、家族が「会いにいつでも？」等と事業所への出入りに不安があるときは、介護計画書に位置づけてサービス担当者会議で説明することで、来所の促進となった例もあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやケアの実践等、記録や連絡ノートに記入し、特に気に掛けて欲しい箇所にはマーク(色を付ける)している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ、本人の希望に沿えるよう、家族と相談しながら支援している。職員も可能な範囲で支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の散歩に行ったり、散歩をしながら神社にお参りしたり(初詣)コロナ禍で人との接触がないが、利用できる資源を活用できるように努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医について確認し、納得したうえでかかりつけ医を決めている。また、適切な医療が受けられるように看護師、主治医と連携を取りながら支援している。	隔週で訪問診療を受け、事業所勤務の看護師の立ちあいの下、記録を残しています。必要な事は家族へ速やかに伝え、またクラスターでは終息まで毎日連絡を入れて連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態で気になることがあれば、看護師に伝え、適切に対応している。日常的に相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時病院関係者の方と必要な情報のやり取りを電話やFAXを利用してしている。入院時、付き添うこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時やプランの見直しや更新時に家族や本人から終末期についてできる範囲で確認している。また、本人の状態が変化してきた所で再度家族から意向を聞き、職員全体で話し合いをしてできる範囲の支援をしている。かかりつけ医とも密に連絡を取り合うようにしている。	365日対応の医師と勤務の看護師がおり、医療体制には安定感があります。ベランダからの出入りで衛生を確保するなど工夫に取組み、本年度も5名を無事見送っています。「ここなら(コロナ禍でも)会えるから」と選ぶ家族も少なくありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応は全ての職員が実践力を身に付けていない。緊急時の連絡方法については知っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、避難方法を未身にけられるように努めている。地域の防災訓練に機会があれば参加したい。今年度については未定である。	地震と火災、内1回は夜間対応の設定で法定訓練を実施しています。本年度は新しく1名採用していますが、配置後は報知器の場所など必要最低限の防災情報をアナウンスし、確認もおこなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の思いをなるべく汲み取れるように努めている。着替えや排泄介助等、扉やカーテンを閉めプライバシーの配慮をしている。	事務所は鍵がかけられるようになっていて、利用者の情報は護られています。現在8名全員女性で、同性介助の希望もありませんが、あれば対応する態勢にあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望は自由に表せる環境である。おやつなど、時には選択できるように数種類の物を出すこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を言える方が少なく、様子を見ながら対応することが多いのが現状である。自分の意思を表せる方は、できる範囲で希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも綺麗に過ごせるように髪をとかしたり、衣類の着方に気をつけている。また、身だしなみを気に掛けられる方には、化粧水など必要なものを切らさないように早めに購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物や食べたい物を聞き、用意することもある。苦手なメニューの時は、別メニューを用意している。丼物の具材を別皿に盛ることもある。(ご飯に具を乗せたくない方)	調理専任職員が利用者のリクエストに耳を傾けています。仕切りはあるもののフロアからキッチンが続いていて、美味しそうな匂いやシズルの音が流れてきて、家庭そのものの食卓です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせた提供の仕方や量を考えて提供している。水分量についても情報共有できている。摂取がなかなか難しい方は、時間をずらしてアプローチしている。補助食品を利用したこともあった。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じたケアをしている。介助によるケアでは、ガーゼや口腔スポンジを利用して口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のリズムを意識してトイレ誘導している。時間を決めず、必要に応じて誘導している。また、パットの種類についても無駄にならないように職員で情報を出して考えている。	排泄行動は生活そのもののリハビリであり、また自立の要として大切に考えています。1名が全介助で、あと1名も職員2名での介助が必要ですが、全ての人がトイレで座っての排泄が叶っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の物を飲めるようにしたり、水分量に気を付けている。必要に応じて主治医に相談し、薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状、介助を必要とする方が多く、希望に沿えないこともある。入った時は、ゆったりと入ってもらっている。	法定で清潔の目安とされる週2日を超え、1日おきの入浴支援をおこなっています。泡にくるまれた洗身で大満足の利用者もいるほか、冬至には職員が庭のゆず持ち込んだ時節風呂も見られます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日、その時の状況や本人の希望に応じて居室で身体を休めるようにしている。休息を取ることで生活にメリハリがつくこともある。」		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬するときには、声を出して氏名・日付・いつの薬かを確認している。薬効・服薬方法などは、看護師から説明を受けている。薬の変更・増減についても報告がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できるお手伝いをしてもらったり、気分転換に外に出て散歩をしたり、好みを聞いて好きな飲み物を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり、積極的に戸外には出していない。近所の散歩程度である。	近所の公園など事業所周辺の散歩や、併設の小規模多機能事業所に誘われて「こどもの国」や「浅間神社」などに出かけることもありますが、コロナ禍で縮小する一方なことは否めません。	NHKのアーカイブスや図書館のビデオで季節の映像に親しむ日もあることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて家族の承諾を得あうえで一緒に買い物支援することはある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話をしたい、手紙を書きたいという希望が現状ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が作ってくれた装飾品やぬいぐるみ等を飾ったりしている。	足踏みミシンなど回想法にもつかえる民具の寄贈が豊富にあったものの、破りちぎってしまふ認知症の症状の影響を受け今後使いそうにありません。一方折り紙が得意な家族が時節に沿って毎月作品を届けてくださり、潤いとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所は、特に決めずに自由に過ごせるようにしている。隣同士になった方と自然に話が始まることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた寝具などを持って来てもらっている。また、馴染の物(写真やぬいぐるみ)を飾っている。	自宅にいる頃から慣れ親しんで眺めていたという皇室カレンダーを飾ったり、家族写真を並べる人もいますが、大半が無機質な居室です。家族としては部屋にこもってほしくないという思いもあるようです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事はなるべく自分で取り組んでもらう。また、通路には障害物を置かず、自由に生活が送れるように配慮している。		